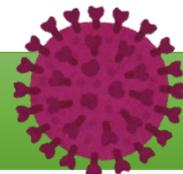




小児の新型コロナウイルス感染症について



暑中お見舞い申し上げます。今回の“第7波”では、当院の医療スタッフに感染関連による休みが多数発生しました。病床の都合上、一部の手術や検査入院を延期するなどして対応しておりましたが、8月5日より入院制限を解除致しました。この期間、ご紹介いただいた救急患者さんには可能な限り対応いたしました。先生方にはご心配、ご迷惑をおかけしたことと存じます。お詫び申し上げますとともに、ご配慮に深く感謝いたします。さて、今回は『小児の新型コロナウイルス感染症』について、当院の小児感染免疫科に尋ねました。

Q1.小児のコロナウイルス感染症の特徴は？

- 特徴のある症状や、感染力の強さなどについて
COVID-19の検査陽性者に占める小児例の割合は増加傾向にあります。(2022年29週(7/18-7/24)では10歳未満12.8%, 10代16.2%。7/26までの20歳未満の死亡17例。)小児例において、無症状者/軽症者が多いことが特徴ですが、無症状者軽症者であってもPCR法などで検出されるウイルスゲノム量は有症状者と同様に多く、呼吸器由来検体のみならず、便中への排泄も長期間認められることが報告されています。
最もよく見られた症状は、咳嗽(37.1%)であり、38℃以上の発熱を認めたのは10.3%, 嗅覚障害・味覚障害は年長児(13~17歳)で6歳以上13歳未満児より多かったと報告されています。
日本小児科学会による調査結果では、オミクロン株流行後には、発熱、痙攣、咽頭痛、嘔吐などの症状の出現頻度が増加しているようです。

- 他の感染症との重複感染などの事例について
現在アデノウイルスやRSウイルス感染症、ヒトライノウイルス/エンテロウイルスも流行しているため、これらのウイルスとの重複感染や、溶血性連鎖球菌、大腸菌による尿路感染症との重複感染もあります。

- 重症化したらどうしたらよいか？
重症化の兆候があれば入院して、症状に応じた治療をおこなう必要があります。
・肺炎：酸素吸入、低酸素状態があればレムデシビルやステロイドの使用
・呼吸不全：人工呼吸器、ECMO。
・重症化のリスクがあり、年齢≧12歳・体重≧40kgの場合：モノクローナル抗体、ニルマトレルビル/リトナビル、モルヌピラビルの使用。
・けいれん：抗けいれん薬の投与
・脳症：症状に応じた脳症の治療
・COVID-19関連小児多系統炎症性症候群(MIS-C/PIMS)：新型コロナウイルス感染症に罹患して2-6週間後に発熱が続き、腹痛・下痢、発疹を認める患者さんの中に、心臓の動きが悪くなるような子どもが10歳前後を中心に報告されています。治療は免疫グロブリン療法、ステロイドを投与します。

Q2.注意すべき点について

- 重症化予防にはどうしたらよいか？
重症化率は基礎疾患ありで5.1%, なしで0.2%と報告されており、新型コロナウイルスワクチン接種により、重症化する人の割合が少なくなります。
- 後遺症について
成人患者と比較し低頻度ですが、小児患者においても3.2%に頭痛、倦怠感、嗅覚・味覚障害などの罹患後症状を認めています。

Q3.予防接種について

日本小児科学会は、接種不相当者を除く5-17歳のすべての小児に新型コロナワクチン接種を推奨しています。接種にあたっては、メリット(発症予防や重症化予防等)がデメリット(副反応等)を大きく上回ると判断できる場合に、メリットとデメリットを本人と養育者が十分理解することが重要であり、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。
有効性については、感染予防効果は31%、発症予防効果は51%、入院予防効果は68%と報告されています。また、ワクチン接種によって、新型コロナの重症な合併症の多系統炎症性症候群の発症を約90%防げることもわかっております。



文責/診療統括部長・
小児感染免疫科長
水野 由美





☆診療体制のご紹介☆



○外来診療担当医表（令和4年8月）

添付の別紙をご参照ください。また、下記URLからもご覧いただけます。

<https://childhp.fcho.jp/files/uploads/外来診療担当医表（令和4年8月）.pdf>



☆地域別紹介患者統計(2022年4月～6月)☆

年度が変わり、患者数もコロナ前の水準に戻りつつあります。変わらず多くの患者さんをご紹介いただき、有り難く感謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

地域医療連携室・副室長 加藤秀幸

地区	4月	5月	6月	地区	4月	5月	6月
福岡市医師会地区	502	459	566	糸島医師会地区	19	20	24
東区	268	225	287	粕屋医師会地区	136	130	157
博多区	53	45	48	宗像医師会地区	51	29	45
中央区	44	43	67	筑紫医師会地区	50	70	70
南区	21	37	41	その他福岡県内	49	40	50
城南区	27	20	21	九州(福岡県外)	120	119	143
早良区	47	57	48	その他(九州外)	53	39	43
西区	42	32	54	合計	980	906	1,098

☆カンファレンス・研修会のご案内☆

○こども病院カンファレンスは、7月・8月休会です

○第26回福岡市立こども病院胎児心エコーカンファレンス
WEB開催(オンデマンド配信) *配信期間:2022年6月30日～

- 1) 胎児心エコー外来新患症例の紹介
- 2) 症例提示1「卵円孔早期閉鎖が疑われた1例」
- 3) 症例提示2「両心房とも同じ心室に接続していた1例」
- 4) 症例提示3「見つけにくかったVSDの1例」
- 5) 専門医からのアドバイス「胎児の心機能評価方法について」

福岡市立こども病院胎児心エコーカンファレンスのホームページにアップしております。

URL:<http://fukkuokataiji.kenkyuukai.jp/>

☆連携室からのご案内☆

当日の診察・入院の依頼は医師間での連絡をお願いしております。地域医療連携室へご連絡ください。

当日の担当医へ電話をお繋ぎいたします。



福岡市立こども病院 地域医療連携室 webサイトはこちら

診療情報提供書を緊急にFAXする場合は下記の番号をご利用下さい

- ・地域医療連携室(平日時間内の対応) FAX 092-692-3318
- ・救急事務室(時間外・土日の対応) FAX 092-692-3369



ご意見・お問い合わせは
地域医療連携室(担当:馬場、寺本)
までお願いいたします
TEL:092-692-3316
Mail:renkei.k@fcho.jp